

フナシホタルブクロ(新品種)

著者	米澤 信道
著者別表示	Yonezawa Nobumichi
雑誌名	植物地理・分類研究
巻	35
号	1
ページ	41-41
発行年	1987-06-15
URL	http://doi.org/10.24517/00056051

個体の萌芽が確認された。これらの各個体の生育期間は45から58日間で、平均生育期間は53.0日間であった。第2週目には31個体(有花個体1個体)が萌芽し、生育期間が45から53日間で、平均生育期間が47.4日間であった。第3週目は40個体(有花個体9個体)が萌芽し生育期間39から46日間で、平均生育期間が43.7日間であった。萌芽期間の最後の週では、41個体(有花個体19個体)が萌芽し、生育期間が32から39日間で、平均生育期間が38.5日間であった。1982年では、萌芽期間が前年より2週間長かったが、各個体の生育期間は同様の傾向を示し、平均生育期間は第1週から第6週まで、67.0, 56.5, 44.6, 42.8, 35.6, 31.8日間と短くなった。このように群落を構成する個体の生育期間は、おそ

く萌芽した個体ほどその生育期間が短くなる傾向を示した。特に、有花個体は無花個体よりおそく萌芽し、生育期間が短くなる傾向を示した。

以上のように、カタクリの生育期間は短かく、また、萌芽時期により生育期間に大きな差がでることが明らかになった。しかし、開花状況をみると、毎年ほぼ同数の開花数がみられ、なかでも40日と短い生育期間の有花個体が翌年も開花することが観察された。このことはカタクリが短かい生育期間にもかかわらず、早春の落葉樹林の林床という環境に適応し、種の維持のための効率のよいエネルギー生産をしていることを意味すると思われる。

(Received Nov. 9, 1986)

○ フナシホタルブクロ (新品種) (米澤信道) Nobumichi YONEZAWA: A New Form of *Campanula punctata* LAM.

ホタルブクロの花冠は、内側に紅紫色の斑点が多少ともあるが、筆者は1985年7月、福井県の景勝地三国海岸で、白花で斑点の全くないものを発見した。



フナシホタルブクロ
(1986年6月27日自宅植栽中のものを撮影)

ホタルブクロは、花色、葉形、毛の多少など変異に富むことが知られているが、三国海岸一帯に分布するホタルブクロは、白花ばかりで、萼や茎葉に毛が少なく、広葉の傾向が強く、とくに、葉の表面は無毛で光沢が著しい。本品種は、これらの集団の中で発見した一型である。写真は、持ち帰り自宅で植栽したものが今年開花したもので、斑点の有無は遺伝的であることが確認できた。なお、本品種を含め、三国海岸一帯のホタルブクロは、多くの個体に茎に虫癭を持つのがめだだったことを付記しておく。

最後に、本品種の採取に際して、成安女子高校の野村健治先生に同行、協力頂いており、深く感謝の意を表します。

Campanula punctata LAM. form. **impunctata** YONEZAWA, form. nov.

Corollae albae impunctatae.

Nom. Jap. Funashi-hotaru-bukuro (nov.)

Hab. Honshu. Pref. Fukui: Mikunikaigan, Mikuni-machi, Sakai-gun, alt. ca. 3m (N. YONEZAWA; July 7, 1985; Holotype in KANA no. 117390).

(〒606 京都市左京区上高野大塚町2-16, Kamitakano-otsukamachi 2-16, Kyoto-shi, Kyoto Prefecture 606) (Received Jun. 12, 1986)

○ 谷口森俊 三重県の高藻相(三重県の植物相その1) 自己出版。昭和62年発行。B5版, 33頁。頒価500円(送料170円を含めて)。内容は三重県全沿岸の高藻群落の分布, 組成, 分類, 季節的消長, 目録, 文献である。入手御希望の方は谷口森俊氏(〒514-11 久居市鳥木町413-2, 振替口座名古屋2-56390)に申しこまれますと送本される。(里見信生)